一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Primary mucosal malignant melanoma of the head and neck	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ14-4	
	研究デザイン	 I.システマティック・レビュー/メタアナリシス Ⅲ.1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ.非ランダム化比較試験 Ⅳ.分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V.記述研究(症例報告やケースシリーズ) 	
		VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	11891956	
⇒	医中誌 ID		
書誌情報	雑誌名	Head Neck	
	雑誌 ID		
	巻	24	
	号	3	
	ページ	247-57	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	2002年	
		氏名	所属機関
	筆頭著者	Patel SG	スローンケタリング記念病院
	その他著者1	Prasad ML	同上
	その他著者 2	Escrig M	同上
	その他著者3	Singh B	同上
 著者情報	その他著者 4	Shaha AR	同上
者名情報	その他著者 5	Kraus DH	同上
	その他著者 6	Boyle JO	同上
	その他著者 7	Huvos AG	同上
	その他著者8	Busam K	同上
	その他著者 9	Shah JP	同上
	その他著者 10		

一次研究の8項目	目的		頭頸部原発の悪性黒色腫における、臨床的・病理学的予後因子を検		
		討する			
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究			
	セッティング	スローンケタリング記念病院			
	対象者	59 例の頭頸部原発の悪性黒色腫(1978~1998 年)			
		原発:鼻腔・副鼻腔(35例)、口腔(24)			
		病期:1期(44例)、2期(6)、3期(3)			
		原発巣の厚み: >5 mm (27 例)			
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)			
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)			
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児			
		7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年			
		9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年			
		11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人			
		13.青年・中高年 14.青年・中高年	13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人		
		16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人			
		19.小児・中高年 20.小児・老人 21	1.青年・老人		
		22.年齢区別せず (14)	22.年齢区別せず (14)		
	介入 (要因曝露)	手術単独 (35 例)、手術+術後照射(18)			
	エント゛ホ゜イント (アウトカム)	エンドポイント	区分		
	1	臨床的特徴	1.主要 2.副次 3.その他 (3)		
	2	病理学的特徵	1.主要 2.副次 3.その他 (3)		
	3	再発形式	1.主要 2.副次 3.その他 (3)		
	4	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)		
	5	予後因子	1.主要 2.副次 3.その他 (3)		
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
	主な結果	原発部位、病期は対象に記載した。			
		初診時の所属リンパ節転移は口腔原発例に多かった(25% vs. 6%)			
		局所再発率:口腔(51%)、鼻腔・副鼻腔(50%)			
		領域リンパ節再発:口腔(42%)、鼻腔・副鼻腔(20%)			
		遠隔再発:口腔(67%)、鼻腔・副鼻腔(40%)			
		5年疾患特異生存率:口腔(40%)、鼻腔・副鼻腔(47%)			
		5年疾患特異生存率における予後不	下良因子:病期、腫瘍の厚み、脈管		
		侵襲、リンパ節および遠隔再発			
		病期、腫瘍の厚み、脈管侵襲、リ	ンパ節および遠隔再発は独立した		
	結論	予後不良因子であった。			

	備考	
	レビューワー氏名	鹿間直人
レビューワーコメント	レビューワーコメント	手術単独群と手術+術後照射群の偏りをみると、術後照射群で鼻腔・副鼻腔原発例が多いが、その他、病期、腫瘍の厚み、脈管侵襲などに関しては大きな開きはない。しかし、まれな疾患であることもあり症例数が限られ、治療法別の比較はされていない。レベル IV